

暮れの八戸 芝居で熱く

あすから29日まで演劇祭



「はちのへ演劇祭」が27、29日、八戸市の「はっち」で行われる。八戸市の4劇団と青森市の2劇団が、それぞれ30分の短編を上演する。本番を間近に控え、熱のこもった稽古が行われている。
演劇祭は「八戸を再び演劇の街へ」という思いで2012年にスタートし、今年で8回目を迎える。

本番を前に稽古に励む八戸学院大学演劇部のメンバーら

市内外6劇団 短編上演

出演する八戸学院大学演劇部は、現代に生きる座敷童の物語を演じる。人間社会で起きるさまざまな問題を通して、座敷童たちが自分たちの存在意義を考える。部長の高坂大誠さん（3年）は「どうやって生きていくかと問う作品になっている」と語った。
2人芝居を披露する八戸市の「大黒屋&伊藤屋ぶろでゅーす」は、5年前に上演した作品をアレンジして再演。しもさき博之さんは「5年半の間に起きた環境の変化を反映して作った」と話した。田中稔さんは「若いパワーに負けないよう円熟味のある芝居をしたい。ぜひ若い人に来てほしい」と語った。他の参加劇団はまぐねっと、com（八戸）、hit ACT project（同）、空間シアターアクセブ（青森）、演劇ユニット「終身雇用」（同）。
30分の短編6作品のうち、2作品を組み合わせて1公演とし、3日間で全6公演を行う。開演は27日午後7時、28日午前11時、午後3時、同6時、29日午前11時、午後3時。チケットは全席自由で前売り一般1200円（当日1500円）、学生700円（同千円）。はっちインフォメーションセンターで販売しているほか、スペースベンホームページからウェブ予約も可能。
問い合わせは同演劇祭制作業務受託者・田中勉さん（電話080・60025・0990）へ。（山谷佳澄）

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです